

Ⅲ. 診療科活動状況

2021年4月～2022年3月

内科

1. 医師体制

役職名等	氏名
内科部長、副院長、消化器内科科長	忍 哲也
内科副部長、救急・総合内科科長	守谷 能和
副院長	福庭 勲
副院長	小野 未来代
内科診療部長	辻 忠男
内科診療部長、糖尿病科科長	村上 哲雄
救急・総合内科部長	後藤 慶太郎
循環器科科長	金子 史
呼吸器内科科長	原澤 慶次
透析科科長、病棟医長	肥田 徹
技術部長	市川 篤
医員	久志本 舞衣子
	下川 郡明
内科専攻医	白藤 拓也
	開原 英範
	山本 茂輝
	富山 桃子
総合内科専攻医	松村 憲浩
	吉本 尚史
	瀧井 未来
川口診療所・所長	内山 隆久
おおみや診療所・所長	山田 晃務

※他科と重複している場合があります

2. 初期研修医

2020年卒 (8名)	揚野 佳太、後藤 昌大、 小山 麻美、清水 愛、 鈴木 佳奈子、瀧田 郁洋、 菱沼 智紀、渡辺 稔
2021年卒 (8名)	天笠 諒、甲斐 安祥、 高野 剛、野島 大輔、 花岡 伸之介、平井 ゆかり、 深見 琢郎、古旗 悠太郎

3. 概要、特徴、特色

- (1) 地域医療の最前線で、いかなる患者様にも対応できる総合力を持つ内科でありたいと考えて診療を行っています。
- (2) 初期研修医は2つの内科病棟(C2病棟、D4病棟)のいずれかに所属して研修を開始します。内科は、初期研修医に基本的な診療スタイルを身につけさせる役割を担っています。

- (3) 2020年8月から、内科C5病棟を新型コロナ専用病棟として患者様の受入を行いました。

4. 学術・研究、講演、研修会等の記録

- (1) 学術・研究等の発表

演題名
学童期に脂肪肝を伴った糖尿病患児の病院と家庭環境の課題に関する考察
<i>Hypermucoviscosity Klebsiella pneumoniae</i> による肝膿瘍の一例
帯状疱疹から水痘・帯状疱疹ウイルス性髄膜炎をきたした一例

■診療実績（診断群分類6桁別、2021年退院患者）

*医科点数表Kコード

傷病 6桁	傷病名	件数	年齢	在院 日数	救急 搬送	紹介 あり	手術 あり 症例 *	診断 検査	教育 入院	計画的 繰り返し 入院	その他 の加療	構成 比%	累積 %
060100	小腸大腸の良性疾患（良性腫瘍を含む。）	403	68.5	2.0	0	187	383	13			390	11.2%	11.2%
060360	慢性膵炎（膵嚢胞を含む。）	252	61.0	7.2	6	178	227	8			244	7.0%	18.2%
180030	その他の感染症(真菌を除く)	246	58.2	12.2	22	37	3				246	6.8%	25.0%
110280	慢性腎炎症候群・慢性間質性腎炎・慢性腎不全	214	72.8	7.4	8	166	160				214	5.9%	31.0%
050130	心不全	148	80.8	15.3	54	85	2	1			147	4.1%	35.1%
050050	狭心症、慢性虚血性心疾患	130	72.2	3.7	1	60	17	109			21	3.6%	38.7%
060340	胆管（肝内外）結石、胆管炎	125	74.5	10.0	33	59	97				125	3.5%	42.2%
110310	腎臓または尿路の感染症	119	76.0	13.7	58	69	11				119	3.3%	45.5%
010060	脳梗塞	117	74.6	35.7	67	44	9				117	3.3%	48.7%
06007x	膵臓、脾臓の腫瘍	89	70.7	5.3	7	48	15	49		8	32	2.5%	51.2%
040080	肺炎等	82	77.1	14.4	38	41	1				82	2.3%	53.5%
040040	肺の悪性腫瘍	75	75.6	10.3	8	46	1	25		20	30	2.1%	55.6%
040081	誤嚥性肺炎	73	83.4	23.1	46	37	4				73	2.0%	57.6%
10007x	2型糖尿病（糖尿病性ケトアシドーシスを除く）	72	66.1	11.6	6	41	0		1		71	2.0%	59.6%
060102	穿孔または膿瘍を伴わない憩室性疾患	60	65.0	7.2	12	22	10	1			59	1.7%	61.3%
060020	胃の悪性腫瘍	59	74.9	9.9	6	23	38	2		6	51	1.6%	62.9%
040110	間質性肺炎	57	74.8	21.5	10	34	3	5			52	1.6%	64.5%
060350	急性膵炎	52	57.0	9.5	10	33	24				52	1.4%	65.9%
060300	肝硬変（胆汁性肝硬変を含む。）	48	66.5	17.4	12	20	16	1			47	1.3%	67.3%
050170	閉塞性動脈疾患	46	73.5	8.3	1	27	13	19			27	1.3%	68.5%
060130	食道、胃、十二指腸、他腸の炎症（その他良性疾患）	44	72.5	10.7	13	15	8				44	1.2%	69.8%
030250	睡眠時無呼吸	42	59.5	2.0	0	32	0	39			3	1.2%	70.9%
030400	前庭機能障害	34	70.4	5.1	24	9	0				34	0.9%	71.9%
080010	膿皮症	33	71.4	14.2	8	18	2				33	0.9%	72.8%
180010	敗血症	33	79.2	24.0	17	15	5				33	0.9%	73.7%
060335	胆嚢水腫、胆嚢炎等	32	79.5	20.1	11	16	22	1			31	0.9%	74.6%
040150	肺・縦隔の感染、膿瘍形成	30	69.0	25.8	9	17	5			1	29	0.8%	75.4%
060050	肝・肝内胆管の悪性腫瘍（続発性を含む。）	29	75.8	13.1	4	15	14	3		1	25	0.8%	76.2%
060190	虚血性腸炎	29	70.4	7.0	4	9	0				29	0.8%	77.0%
040120	慢性閉塞性肺疾患	27	80.2	19.6	13	12	0				27	0.8%	77.8%
050210	徐脈性不整脈	27	83.6	10.1	4	14	25			1	26	0.8%	78.5%
060210	ヘルニアの記載のない腸閉塞	25	71.8	18.6	8	8	2				25	0.7%	79.2%
060035	結腸（虫垂を含む。）の悪性腫瘍	23	69.5	7.6	2	11	15	2		1	20	0.6%	79.9%

傷病 6 桁	傷病名	件数	年齢	在院 日数	救急 搬送	紹介 あり	手術 あり 症例 *	診断 検査	教育 入院	計画的 繰り返 し入院	その他 の加療	構成 比%	累積 %
100393	その他の体液・電解質・酸 塩基平衡障害	23	75.1	10.4	11	10	0				23	0.6%	80.5%
110290	急性腎不全	22	75.5	14.6	8	12	1				22	0.6%	81.1%
010040	非外傷性頭蓋内血腫	21	73.6	47.5	11	7	2				21	0.6%	81.7%
040200	気胸	21	66.7	16.0	1	12	1				21	0.6%	82.3%
060140	胃十二指腸潰瘍、胃憩室症、 幽門狭窄（穿孔を伴わない もの）	21	71.2	10.3	7	11	8				21	0.6%	82.9%
	その他の傷病	0			0	0	0	0	0	0	0	0.0%	82.9%
	計	3,599	70.1	11.7	976	2,064	1,280	338	1	60	3,816	100.0%	

循環器内科

1. 医師体制

役職名等	氏名
副院長	福庭 勲
科長	金子 史
秩父生協病院・院長	山田 昌樹
非常勤	6名

2. 概要、特徴、特色

当院では高血圧症・虚血性心疾患（狭心症など）・不整脈・心不全・弁膜症などを中心に循環器疾患全般にわたって診療を行っています。

外来では心電図検査・胸部レントゲン検査・心臓超音波検査・ホルター心電図検査・トレッドミル運動負荷心電図検査、心臓CT検査などを行い、心臓病の早期発見に努めています。

狭心症などの虚血性心疾患が疑われる場合は、診断の精度を高めるために、心臓カテーテル検査（通常2泊3日入院）を行います。ほとんどの症例で体に負担が少ない手首からの心臓カテーテル検査を行っています。また、入院せずに外来で精密検査を行うことのできるように、心臓冠動脈CT検査を導入しています。

心臓カテーテル検査などで冠動脈の狭窄が発見された場合は心臓カテーテル治療（経皮的冠動脈ステント留置術など）を行っています。バルーンを用いて血管の狭窄を拡張したり、金属でできた金網（ステント）を植え込む治療を行います。心臓カテーテル検査や治療では、クリニカルパスを用いて、安全な検査・治療に努めています。

不整脈では、ペースメーカー手術も行っています。退院後はペースメーカー外来（予約制）で定期的に術後の経過をみせていただいています。

心臓病の予防も重要な分野として、医師・看護師・薬剤師・栄養士・リハビリなどを含めて取り組んでいます。

また、心臓病を悪化させる原因として喫煙や睡眠時無呼吸症候群などがあり、禁煙外来や息いき外来（睡眠時無呼吸症候群）とも連携をとって、診療を行っています。

3. 診療実績

(1) 外来診療

- ①主たる疾患：高血圧・心不全・虚血性心疾患・不整脈・弁膜症・心筋症・閉塞性動脈硬化症など

- ②手術適応症例は心臓外科外来（非常勤）にて診療
③ペースメーカー外来

(2) 治療

- ①経皮的冠動脈ステント留置術18例
・病変部位（重複含む）：LAD10例、LCX2例、RCA6例
- ②下肢血管拡張術12例
・病変部位（重複含む）：CIA2例、EIA4例、SFA8例
- ③ペースメーカー移植術12例
・不整脈：完全房室ブロック2例（DDD1例、VVI1例）、2度房室ブロック1例（DDD1例）、洞不全症候群2例（VVI2例）、心房細動7例（VVI7例）
- ④ペースメーカー交換術19例

■診療実績 (診断群分類 6 桁別、2021年退院患者)

* 医科点数表 K コード

傷病 6 桁	傷病名	件数	年齢	在院 日数	救急 搬送	紹介 あり	手術あり 症例*	診断 検査	計画的 繰り返し 入院	その他 の加療
050030	急性心筋梗塞 (続発性合併症を含む。)、再発性心筋梗塞	4	85.3	10.0	3	2	0			4
050050	狭心症、慢性虚血性心疾患	130	72.2	3.7	1	60	17	109		21
050070	頻脈性不整脈	17	73.4	9.2	1	8	2	2		15
050080	弁膜症 (連合弁膜症を含む。)	5	82.0	5.4	0	4	0	4		1
050090	心内膜炎	10	75.6	19.7	2	5	0			10
050130	心不全	148	80.8	15.3	54	85	2	1		147
050140	高血圧性疾患	7	71.1	8.3	1	1	0			7
050170	閉塞性動脈疾患	46	73.5	8.3	1	27	13	19		27
050180	静脈・リンパ管疾患	3	63.7	14.0	0	0	0			3
050190	肺塞栓症	6	73.7	20.3	3	4	0			6
050200	循環器疾患 (その他)	5	69.6	6.8	3	1	0	1		4
050210	徐脈性不整脈	27	83.6	10.1	4	14	25		1	26
	計	408	76.5	10.0	73	211	59	136	1	271

検査及び処置名	件数
経皮的冠動脈ステント留置術 その他のもの	17
ペースメーカー移植術 経静脈電極の場合	11
ペースメーカー交換術	16
四肢の血管拡張術・血栓除去術	12
経皮的シャント拡張術・血栓除去術	13
下大静脈フィルター留置術	0
心臓カテーテル検査	181
UCG	3408
ホルター心電図	671
トレッドミル	73
経食道エコー	9
心臓 CT	139
体内ペースティング	33
体外ペースティング	2
PCI (IVUS)	22
心嚢穿刺	0

呼吸器内科

1. 医師体制

役職名等	氏名
科長	原澤 慶次
技術部長	市川 篤
医員	草野 賢次
熊谷生協病院・副院長	宮岡 啓介
非常勤	2名

※他科と重複している場合があります

2. 概要、特徴、特色

地域の中核病院たるべく呼吸器科領域を幅広く診療しています。一般的な肺炎診療から、非結核性抗酸菌症や排菌のない結核症などといった感染性疾患や、慢性閉塞性肺疾患・気管支喘息といった気道疾患、間質性肺疾患、肺癌などに対する診療を外来・病棟で展開しています。外科とも連携し、肺癌手術のみならず、気胸や膿胸などといった炎症性疾患、胸腔鏡下肺生検なども行っています。

また、当院呼吸器内科の特色の一つはコメディカルスタッフとの協力です。慢性閉塞性肺疾患患者が中心ですが、リハビリテーション部門とも連携して外来呼吸リハビリテーションを行っています。

日本呼吸器学会認定施設

3. 診療実績

(1) 外来診療

実患者数	のべ患者数
1,308人	6,482人

(2) 病棟診療

常勤医師2名で担当しています。肺炎や慢性閉塞性肺疾患・気管支喘息などの気道疾患、間質性肺炎、肺癌などを扱っています。

(3) 化学療法患者数 26人

(4) 検査・手術等

処置検査	件数
気管切開術	6
新規在宅人工呼吸管理	16
気管支鏡検査	81
在宅酸素療法新規導入	38
胸腔穿刺	87
局麻下胸腔鏡	7

4. 次年度に向けて

引き続き年1回、地域住民に向けて慢性閉塞性肺疾患あるいは気管支喘息について講習会を開催し、積極的に地域住民の健康活動を啓蒙していきます。

■診療実績 (診断群分類 6 桁別、2021年退院患者)

* 医科点数表 K コード

傷病 6 桁	傷病名	件数	年齢	在院 日数	救急 搬送	紹介 あり	手術あり 症例*	診断 検査	計画的 繰り返し 入院	その他 の加療
040010	縦隔悪性腫瘍、縦隔・胸膜の悪性腫瘍	2	73.0	10.0	0	0	0			2
040040	肺の悪性腫瘍	75	75.6	10.3	8	46	1	25	20	30
040050	胸壁腫瘍、胸膜腫瘍	5	82.0	16.2	1	3	0			5
040080	肺炎等	82	77.1	14.4	38	41	1			82
040081	誤嚥性肺炎	73	83.4	23.1	46	37	4			73
040090	急性気管支炎、急性細気管支炎、下気道感染症 (その他)	1	72.0	15.0	0	0	0			1
040100	喘息	10	72.5	8.3	4	4	0			10
040110	間質性肺炎	57	74.8	21.5	10	34	3	5		52
040120	慢性閉塞性肺疾患	27	80.2	19.6	13	12	0			27
040130	呼吸不全 (その他)	5	86.6	16.0	2	3	0			5
040140	気道出血 (その他)	1	74.0	19.0	1	1	1			1
040150	肺・縦隔の感染、膿瘍形成	30	69.0	25.8	9	17	5		1	29
040160	呼吸器の結核	8	84.8	47.9	3	6	1	1		7
040170	抗酸菌関連疾患 (肺結核以外)	6	69.3	19.8	1	1	1	2		4
040190	胸水、胸膜の疾患 (その他)	5	75.0	16.4	2	2	0	1		4
040200	気胸	21	66.7	16.0	1	12	1			21
040210	気管支拡張症	1	81.0	16.0	1	0	0			1
040220	横隔膜腫瘍・横隔膜疾患 (新生児を含む。)	2	82.0	10.0	2	2	0			2
040240	肺循環疾患	1	70.0	2.0	0	0	0			1
040250	急性呼吸窮<促>迫症候群	1	81.0	9.0	1	0	0			1
04026x	肺高血圧性疾患	7	72.0	23.9	1	2	0	1		6
040310	その他の呼吸器の障害	3	67.3	31.7	1	2	1			3
	計	423	76.6	18.2	145	225	19	35	21	367

消化器内科

1. 医師体制

役職名等	氏名
院長	増田 剛
院長補佐	高石 光雄
副院長	小野 未来代
副院長、内科部長、消化器内科科長	忍 哲也
内科診療部長	辻 忠男
内科副部長、救急・総合内科科長	守谷 能和
医員	大石 克巳
	孫 国東

※他科と重複している場合があります

2. 概要、特徴、特色

- (1) 地域に密着した急性期病院の消化器内科としての役割を果たすべく診療に当たっています。
- (2) 1次2次を中心とした救急車搬入台数は年間3,600件に及び、消化管出血や黄疸・胆管炎の患者様も数多く来院されるため、救急医療における消化器内科医の役割は大きいです。
- (3) 上下部消化管内視鏡検査、内視鏡的胆膵管造影および関連処置、超音波内視鏡検査、治療内視鏡を行っています。
従来の大腸ポリープに対する内視鏡的粘膜切除術（EMR）に加えて上部下部早期癌に対する粘膜下層剥離術（ESD）の件数も増加しています。緊急胆道ドレナージも積極的に行っています。膵石治療の経験豊富な辻忠男医師の指導の下、慢性膵炎の診療実績は日本屈指となっております。
- (4) 消化器専門外来では炎症性腸疾患、慢性肝炎・肝硬変、肝細胞癌などの慢性期管理を行っています。B型・C型慢性肝炎への経口抗ウイルス治療の件数や、炎症性腸疾患への分子標的薬投与実績も増加しています。
- (5) 医局が同一である強みを活かして外科と緊密に連携を取り、必要な場合はスムーズに手術まで繋げています。
- (6) 癌化学療法を受ける患者様も年々増加しており、キヤンサーボードを行って方針を検討しています。

3. 診療実績

(1) 検査・処置数

検査・処置	件数
上部消化管内視鏡検査	7,707
上部（悪性）ESD	37
上部（良性）EMR	3
下部消化管内視鏡検査	2,015
下部（悪性）EMR	20
下部（悪性）ESD	11
下部（良性）EMR	464
胆道系検査・処置	51
PEG交換（TPEG含む）	49
PEG造設	16
PTEG新規	3
腹部血管造影・止血	15
PEIT	2
TAE	31
EIS	4
EVL	12
内視鏡的消化管止血術	28
食道ステント留置術	3
胃・十二指腸ステント留置術	4
肝生検・その他の生検	3
吻合部拡張術	17
穿刺（膿瘍・胆のう）	61
ラジオ波焼灼	1
超音波内視鏡検査（上部・下部）	89
膵石ESWL（一連）	458
膵・胆道系検査・処置（ERCP）	512
胆道系検査・処置	51

肝炎経口治療	件数
B型慢性肝炎（核酸アナログ治療）	64
C型慢性肝炎（経口治療）	8

■診療実績 (診断群分類 6 桁別、2021年退院患者)

* 医科点数表 K コード

傷病 6 桁	傷病名	件数	年齢	在院 日数	救急 搬送	紹介 あり	手術あり 症例*	診断 検査	計画的 繰り返し 入院	その他 の加療
060010	食道の悪性腫瘍 (頸部を含む。)	3	79.0	16.0	2	1	1			3
060020	胃の悪性腫瘍	59	74.9	9.9	6	23	38	2	6	51
060030	小腸の悪性腫瘍、腹膜の悪性腫瘍	1	69.0	1.0	0	1	0		1	
060035	結腸 (虫垂を含む。) の悪性腫瘍	23	69.5	7.6	2	11	15	2	1	20
060040	直腸肛門 (直腸S状部から肛門) の悪性腫瘍	13	70.3	5.8	0	8	11			13
060050	肝・肝内胆管の悪性腫瘍 (続発性を含む。)	29	75.8	13.1	4	15	14	3	1	25
060060	胆嚢、肝外胆管の悪性腫瘍	12	77.1	10.8	0	7	9	2	1	9
06007x	膵臓、脾臓の腫瘍	89	70.7	5.3	7	48	15	49	8	32
060090	胃の良性腫瘍	11	63.9	2.6	0	6	2	9		2
060100	小腸大腸の良性疾患 (良性腫瘍を含む。)	414	68.6	2.0	0	192	394	13		401
060102	穿孔または膿瘍を伴わない憩室性疾患	60	65.0	7.2	12	22	10	1		59
060130	食道、胃、十二指腸、他腸の炎症 (その他 良性疾患)	44	72.5	10.7	13	15	8			44
060140	胃十二指腸潰瘍、胃憩室症、幽門狭窄 (穿孔を伴わないもの)	21	71.2	10.3	7	11	8			21
060141	胃十二指腸潰瘍、胃憩室症、幽門狭窄 (穿孔を伴うもの)	2	81.5	41.0	1	1	1			2
060150	虫垂炎	1	60.0	5.0	0	1	1			1
060170	閉塞、壊疽のない腹腔のヘルニア	2	64.0	8.0	2	0	0			2
060180	クローン病等	4	80.8	9.5	0	1	1			4
060185	潰瘍性大腸炎	7	46.4	15.3	1	2	0	1		6
060190	虚血性腸炎	29	70.4	7.0	4	9	0			29
060210	ヘルニアの記載のない腸閉塞	25	71.8	18.6	8	8	2			25
060241	痔核	4	65.5	6.0	1	2	0			4
060270	劇症肝炎、急性肝不全、急性肝炎	3	41.0	5.3	1	1	0			3
060280	アルコール性肝障害	15	55.1	9.3	4	10	0			15
060300	肝硬変 (胆汁性肝硬変を含む。)	48	66.5	17.4	12	20	16	1		47
060310	肝膿瘍 (細菌性・寄生虫性疾患を含む。)	6	78.5	18.7	2	4	5			6
060320	肝嚢胞	1	69.0	12.0	0	0	1			1
060330	胆嚢疾患 (胆嚢結石など)	1	72.0	1.0	0	0	0	1		
060335	胆嚢水腫、胆嚢炎等	32	79.5	20.1	11	16	22	1		31
060340	胆管 (肝内外) 結石、胆管炎	125	74.5	10.0	33	59	97			125
060350	急性膵炎	52	57.0	9.5	10	33	24			52
060360	慢性膵炎 (膵嚢胞を含む。)	252	61.0	7.2	6	178	227	8		244
060370	腹膜炎、腹腔内膿瘍 (女性器臓器を除く。)	8	66.6	32.5	0	7	3			8
060380	ウイルス性腸炎	9	53.4	8.4	1	2	0			9
060390	細菌性腸炎	16	51.4	7.0	6	4	0			16
060391	偽膜性腸炎	2	94.0	24.5	2	0	0			2
060570	その他の消化管の障害	4	49.3	4.8	0	2	2			4
	計	1,427	67.7	7.4	158	720	927	93	18	1,316

糖尿病内科

1. 医師体制

役職名等	氏名
内科診療部長、科長	村上 哲雄
医長	島村 裕子
医員	高橋 きよ子
	坂下 杏奈
	川合 汐里
	肥田 徹
非常勤	1名

※他科と重複する場合があります

糖尿病学会認定研修指導医 3名

糖尿病学会専門医 5名

院内 CDEJ (Certified Diabetes Educator of Japan) 10名

合併症管理料算定者 4名

日本内科学会総合内科専門医・指導医 1名

日本腎臓学会腎臓専門医 1名

日本透析学会透析専門医 1名

2. 概要、特徴、特色

糖尿病領域を中心とした専門的診療を行っています。

1型糖尿病、2型糖尿病、妊娠糖尿病を含め、各種病態患者の診療を行い、健康寿命の延伸を治療目標にしています。糖尿病を併発している外科領域の患者の血糖コントロールについても、連携をしています。他の医療機関との連携もとって、紹介患者の診療にあたっています。

患者会活動も行っており、糖尿病教室、糖尿病協会発行の「さかえ」を読む会を行っており、コメディカルスタッフと協同して患者教育にも努めています。

3. 診療実績

(1) 外来診療 (2021年延べ患者数12,567人/1ヶ月平均1,047人)

- ①糖尿病外来を予約外来として行っており、初診外来で他の医療機関からの紹介患者、および院内からの依頼患者の診療にあたっています。また、妊娠糖尿病患者、糖尿病合併妊娠の患者の管理も行っています。
- ②糖尿病外来教室として“はじめくん外来”を行っており、診察・栄養指導・看護師面談も並行して行い、合併症の評価もしながら指導しています。今年度の参加者は25名で換気を十分にし、講義時間を短縮する感染対策を行いました。
- ③インスリン導入は外来で行うことが多く、糖尿病外来でのインスリン使用患者数は当該期間 (2021年4

～6月)で510人(うち75歳以上184人)でした。必要時、インスリン注射の手技の再チェックを行っています。

- ④GLP-1注射薬(ビテュリオン、ビクトーザ、リキスミア、パイエッタ、トルリシティ、オゼンピック)も導入しています。
- ⑤CSII(持続皮下インスリン注入療法)も行っています。
- ⑥CGMS(持続血糖モニタリングシステム)も血糖日内変動を詳細に把握できる点で優れており、入院、外来で施行しています。
- ⑦フットケアも実施しており、足の管理、足病変の早期発見に努めています。算定件数は178件で、予約枠は9枠/月(前年度27枠/月)へと減少しました。
- ⑧糖尿病透析予防指導管理を行い、糖尿病腎症進展の防止に努めています。2012年10月より開始して、診察、看護指導、栄養指導を包括的にを行い、2021年では52名指導しました。腎症3期の指導ができるスタッフが6名増加しました。
- ⑨糖尿病患者会、日本糖尿病協会発行の「さかえ」を読む会は今年度は感染拡大の観点から中止しています。

(2) 病棟診療

- ①糖尿病コントロール入院にて食事療法、薬物療法、運動療法を含めて教育も行い、78名がコントロールを行いました。

(3) 糖尿病内科チーム

4. 学術・研究、講演、研修会等の記録

(1) 教育

- ①糖尿病カンファレンス(毎週1回)
医師、コメディカルスタッフで行っており、2021年の症例数は58人。職員参加数は156名。患者の日常生活環境、問題点等について検討し、指導のポイントについて討論を行い、患者のQOL向上に努めています。
- ②糖尿病医療チーム会議(毎月1回)
新しい情報の検討、診療業務の改善、向上に努めています。
- ③第64回 日本糖尿病学会年次学術集会に参加

(2) 研究

- ①糖尿病合併症進展因子についての検討
- ②糖尿病腎症の進展予防に対する、新しい糖尿病治療薬の効果についての検討

(3) 学術・研究等の発表

G4とリプレのメリットデメリット

学童期に脂肪肝を伴った糖尿病患児の病因と家庭環境の課題に関する考察

腎臓内科(透析)

1. 医師体制

役職名等	氏名
科長、病棟医長	肥田 徹
糖尿病内科医長	島村 裕子
非常勤医	5名

※他科と重複する場合があります

2. 概要、特徴、特色

- (1) 腎臓内科では、主に慢性腎臓病の診断、保存期治療を実施しています。
- (2) 腎臓内科、及び透析科では、急性期治療として緊急透析、持続緩徐式血液浄化、免疫吸着療法等を実施し救命治療に従事しています。また他院に通院している透析患者の急性期治療中の維持透析、また周術期の透析管理を実施しています。
- (3) 当院では、末期腎不全患者の透析導入施設としての役割があり、安全に透析導入し、維持透析クリニックへ紹介しています。

3. 診療実績

(1) 患者数

		実人数	のべ人数
腎臓内科	外来	309人	1,616人
透析	外来		9,070人
	入院		1,848人

(2) 手術・透析等

内シャント造設件数	56件	
経皮的シャント拡張術	130件	
維持透析導入患者数	33件	
維持透析件数	10,841件	
急性血液浄化	人工腎臓	56件
	持続緩徐式血液浄化	36件
	エンドトキシン吸着	7件
	血球成分除去療法：	30件
	腹水濾過濃縮再静注法	12件
	単純血漿交換	0件
その他の血液浄化法	7件	

■診療実績（診断群分類 6 桁別、2021年退院患者）

*医科点数表 K コード

傷病 6 桁	傷病名	件数	年齢	在院 日数	救急 搬送	紹介 あり	手術あり 症例*	診断 検査	その他 の加療
11001x	腎腫瘍	3	69.0	15.0	2	1	0		3
110050	後腹膜疾患	4	73.0	11.8	0	1	0	1	3
110070	膀胱腫瘍	1	58.0	2.0	0	0	0		1
110080	前立腺の悪性腫瘍	1	82.0	50.0	0	1	0		1
11012x	上部尿路疾患	10	65.8	5.8	3	5	4		10
11013x	下部尿路疾患	2	88.5	7.0	0	1	0		2
11022x	男性生殖器疾患	10	68.4	8.0	3	6	0		10
110260	ネフローゼ症候群	6	62.5	11.5	1	2	0		6
110270	急速進行性腎炎症候群	1	80.0	39.0	0	1	0		1
110280	慢性腎炎症候群・慢性間質性腎炎・慢性腎不全	214	72.8	7.4	8	166	160		214
110290	急性腎不全	22	75.5	14.6	8	12	1		22
110310	腎臓または尿路の感染症	119	76.0	13.7	58	69	11		119
110320	腎、泌尿器の疾患（その他）	1	90.0	6.0	1	0	0		1
110430	腎動脈塞栓症	1	47.0	11.0	0	1	0		1
	計	395	73.5	10.0	84	266	176	1	394

救急・総合内科

1. 医師体制

役職名等	氏名
部長	後藤 慶太郎
内科副部長、科長	守谷 能和
初期研修医	16名

※他科と重複している場合があります

2. 救急搬入

救急搬入患者数	3,455人
(要請数)	7,549人
(受入率)	47%
(入院数)	1,108人

在宅医療

1. 医師体制

役職名等	氏名
リハビリテーション科診療部長	稲村 充則
非常勤	有田 圭介

※他科と重複している場合があります

2. 診療科の特徴

埼玉協同病院は開設以来40年以上、民医連の歴史を受け継ぎ、在宅医療を行ってきました。介護保険が始まった2000年頃は当院の在宅患者数は240人程度となっています。厚生労働省が医療機能分化のために2006年に在宅療養支援診療所、2008年に在宅療養支援病院(200床以下)の制度を作りました。当時、この地域で、往診／訪問診療を定期的に行う医療機関は皆無に近い状態でした。診療報酬上の制度が出来てもなかなか増えませんでした。

この移行期に、病院としては在宅医療部門をそのまま残し、それまでの患者さんに加え、経済的・社会的に困難な方や最期を住み慣れた場所で過ごしたいという方への訪問を継続することにしました。全国をみわたしても、この規模で院内に在宅医療部門をもつところはごく少数と思います(平成年間までは天理よろず相談所病院は700床規模で院内に在宅医療部門を持っていました)。

当院としては地域医療の中での連携を重視し、次第に増えてきた地域の在宅療養支援診療所・支援病院と連携し、多くの患者さんを紹介し、在宅療養を行う患者・家族への支援を行っています。当院の患者数は当然ながら年々減少しています。

がん患者さんについては当院の緩和ケア病棟の役割(症状コントロール、在宅療養の支援)を発揮しながら、総合サポートセンターを中心に、他院に紹介した患者さんを地域の中で支援しています。

在宅療養の患者構成は多数の疾患が背景にあります。現在は大きくがん、非がんに分け対応します。非がんの中には脳血管障害、認知症、呼吸器／循環器疾患、神経難病などが含まれ、人生の最終段階の支援と緩和ケアを行います。また、急性増悪時には病院のベッドを利用し、緊急対応を行い、リセットして在宅療養を継続支援します。

「簡単に看取りと言わないで」:「看取り」に近いということで新たに導入になる方がいます。看取りという言葉が一人歩きします。しかし、在宅療養の中で回復し元

気に何年か過ごされる方がいます。自宅という環境の中では、きちんと対応することで不思議な力が発揮されるのです。

3. 活動と診療実績

(1) 在宅管理数

①在宅管理数 47人/月平均

②新規在宅管理数 26人/年

(2) 在宅医療と看取り

		入院死亡	在宅死亡	他院死亡
死亡22人	がん 11人	7人	4人	3人
	非がん8人	2人	6人	

4. 学術・研究、講演、研修会等の記録

(1) 往診だよりへの執筆

春号	花粉症
夏号	タバコと新型コロナウイルス感染症
秋号	介護が必要になる主な原因は？フレイルとサルコペニアについて
冬号	新年のご挨拶

5. 次年度に向けて

長く当院にかかりつけで通院困難となり、自宅療養を希望される方、社会的・経済的にも困難がある方、入院から自宅療養に切り替えとなる方で、最期が近い方の支援を行っていきます。人生の最終盤を自宅で過ごしたい方などの在宅療養を支援するためです。

今後、地域包括ケア病床を新設した第2病院（仮称）が開始された際には、在宅療養支援病院として急性期、地域包括ケア、老人保健施設、訪問看護、居宅と地域を総合的に支える活動の中で在宅医療・訪問診療は質量ともに大きく発展していくものと考えます。

リハビリテーション科

1. 医師体制

役職名	氏名
診療部長	稲村 充則
副部長	野口 周一

※他科と重複している場合があります

被ばく相談外来

1. 医師体制

役職名等	氏名
精神科部長	雪田 慎二

※他科と重複する場合があります

2. 概要、特徴、特色

被ばく相談外来は、月1回、完全予約制で行っています。広島・長崎の原爆被爆者、福島第1原発事故被害者、原発労働者などの健康相談を実施しています。

また、福島第1原発事故に関連して、福島県双葉町の住民を対象に甲状腺エコー検査の集団検診を毎年、継続的に行っています。2021年度は2022年2月6日（日）に実施し、27名が受診されました。

禁煙外来

1. 医師体制

役職名等	氏名
健診センター長	小池 昭夫
内科技術部長	市川 篤

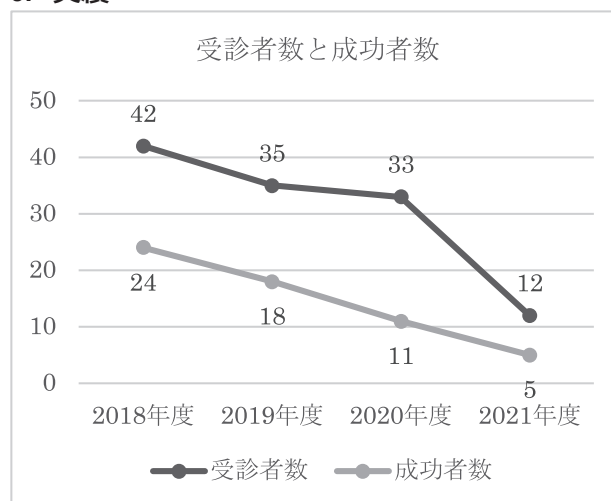
※他科と重複している場合があります

2. 概要、特徴、特色

タバコを吸い続けてやめられない状態は、ニコチン依存症と診断され、治療が必要です。本人の能動喫煙以外に、周囲の受動喫煙による健康障害（発がん）の防止が注目されています。当院では、毎週火曜日と木曜日の午後、完全予約制で禁煙外来を行っています。喫煙歴をきちんと把握したうえで、喫煙補助薬の処方、治療の経過を見守っています。禁煙スケジュールは3ヶ月以内に5回受診します。また、2006年4月から一定の条件を満たせば、健康保険等を使って禁煙治療を受けることができるようになりました。

オンライン診療導入を検討し、準備を進めています。

3. 実績



小児科

1. 医師体制

役職名等	氏名
診療部長	和泉 桂子
副部長	荒熊 智宏
科長、病棟医長	平澤 薫
医長	藤田 泰幸
医長(4月から)	金子 芳
法人内事業所	小堀 勝充
非常勤	黒須友梨香、齋藤 陽子、 平井 克明、中村 明夫、 脇田 傑、吉岡こずえ

2. 診療科の特徴

2021年度も新型コロナウイルス感染症が流行しており、診療や各種活動(集団での育児支援等)に制限があるなかで医療活動を行ってきました。小児科で主に診療する感染症もコロナ流行前とは変化し、日々感染対策も含め手探りで診療を続けている状況です。入院患者も2020年度より増えましたが、コロナの流行前にはいたらない状況です。

従来各種の育児支援を積極的に行っていましたが、新型コロナウイルス感染症のため集団での育児支援の中止を余儀なくされております。そのためLINEやZOOMなどを利用した情報提供や支援を行っております。

3. 活動と診療実績

(1) 外来医療

午前一般外来を行い、午後を中心に専門外来、乳児健診・予防注射を行っています。コロナ流行時期には、午前は発熱者と非発熱者の待合を分ける等を行い、午後は原則非感染者の予約外来を行い、急患は隔離室で対応するなど感染対策を行いながら診療を継続しています。新型コロナウイルス感染症の小児科の入院病床はありませんが、外来では診断、治療を行っており、必要時に入院の紹介をしています。

専門外来は、アレルギー・発達(神経)・心理・腎臓・循環器・内分泌/生活習慣病があります。

乳児健診は多職種(医師、看護師、保育士、管理栄養士)の協力を得て、育児支援に力をいれた形で実施していましたが、集団指導が困難なため、必要など家族に個別に指導を行う形にかえています。予防接種は同時接種(1回4本まで)や基礎疾患のある児(けいれん発作、

アレルギーなど)にも対応しています。

小児科外来患者数 年間 のべ 11,124人

小児科紹介患者数 年間 403人

(再掲 うち入院73人)

川口市小児夜間救急 毎週金曜日 年間 342人

乳幼児健診 1ヶ月 359人、3-4ヶ月 192人、

6-7ヶ月 156人、9-10ヶ月 139人、

1歳 127人、1歳半 143人

合計 年間 1,213人(延べ人数)、

予防接種 年間 3,836人(延べ人数)

- ・巣ごもりCafé: 毎月第4金曜日の昼にzoomを使い、育児中の母に向けて病院スタッフ(医師、看護師、助産師、栄養士、保育士など)がミニ学習会を行っています。骨盤ケア・産後のリフレッシュ方法、スキンケア、離乳食など月齢に合わせた複数のコースを用意しています。母からの質問にも答える双方向性の企画です。

(2) 入院医療

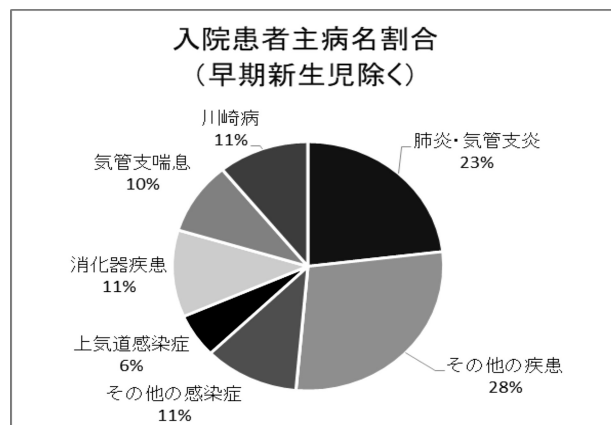
従来気道感染症が多くを占めていましたが、新型コロナウイルス感染流行に伴い減少していましたが、しかし2021年度は夏場にRSウイルスの流行がありました。他には川崎病や尿路感染症といった小児におけるcommon diseaseを中心に入院があります。

新生児に関しては分娩数も減少しており、新生児室への入院児も少ないですが、多呼吸・黄疸・低血糖など軽症例に対応しています。重症例については近隣のNICUと連携をとって対応致します。

小児科入院患者数 年間 315人

産科分娩数 年間 356人

(再掲 早期新生児疾患入院数 年間 103人)



外科

1. 医師体制

役職名等	氏名
外科部長	井上 豪
院長補佐	井合 哲
外科副部長	栗原 唯生
	佐野 貴之
技術部長	市川 辰夫
	長 潔
	浅沼 晃三
	小野 聡
乳腺外科科長	金子 しおり
病棟医長	重吉 到
医員	松原 浩太
外科専攻医	入江 直子
非常勤	1名

※他科との重複する場合があります

2. 概要、特徴、特色

当院外科は、消化器一般外科を中心に、肺外科、乳腺外科の診療を行っています。川口市、さいたま市地域の患者さんに、住み慣れた地域で安心して外科医療を受けて頂けるよう、日々の診療に励んでおります。

- (1) 消化器外科では主に胃、大腸、肝胆膵の良性および悪性疾患に対する手術を行っています。腹腔鏡下の低侵襲手術から進行がんに対する開腹下の拡大手術まで幅広く対応しています。進行がんに対する治療では、抗がん剤治療を組み合わせた集学的な治療が必要になることがあります。非常勤の腫瘍内科医師と協力しながら、積極的に治療を行っています。胆石症の手術が多いのも当院の特徴です。当院は消化器内科でも胆膵内視鏡の件数が非常に多く、患者さんの病状や背景に応じた柔軟な対応が可能です。
- (2) 肺外科は、埼玉県立循環器呼吸器病センターから手術支援を受けながら治療を行っています。
- (3) 乳腺外科は、女性医師を中心とした看護師、技師などの多職種によるチーム医療が特徴です。乳腺外科に限らず、多職種が参加したチーム医療により、患者さんの生活背景まで配慮した医療を提供できるのが当院の最大の強みです。
- (4) この地域は人口に比して中～大規模病院が少ないため、緊急性の高い外科疾患への対応も当院の重要な責務であると考えています。急性腹症への対応を今後一

層強化したいと考えています。

3. 外来患者数

実患者数	のべ患者数
3,669人	14,115人

4. 学術・研究、講演、研修会等の記録

(1) 学会・研究会等の発表

演題名
Falciform ligament abscess with mass-like appearance and intrahepatic disseminated foci
A case of follicular pancreatitis forming multiple nodules
高度リンパ節転移を伴う胃癌に対して根治切除後、左外腸骨リンパ節再発を来し RO 切除を施行し得た 1 例
直腸癌に合併し腹腔鏡下に切除し得た、後腹膜神経鞘腫
Usefulness of a W-ED tube for postoperative complications of gastric cancer

埼玉協同病院外科 手術実績	2019		2020		2021	
	手術件数	うち鏡視下	手術件数	うち鏡視下	手術件数	うち鏡視下
入院手術総数(手術室施行)	693	299	662	303	709	369
肺切除						
主な手術	22	15	25	20	34	32
悪性						
部分切除	12	11	13	13	10	10
葉切除	6		6	1	7	5
良性						
部分切除	1	1	1	1	3	3
気胸	3	3	5	5	9	9
その他の胸部手術	5	5	4	3	5	5
悪性	1	1			1	1
良性	4	4	4	3	4	4
食道切除	1					
悪性	1					
良性	0					
胃切除	22	5	27	4	29	16
悪性						
胃全摘	4		8		4	
幽門側切除	13	4	15	3	8	5
その他	4	1	4	1	15	10
良性						
幽門側切除	1					
その他					2	1
大腸切除	102	46	83	33	98	46
悪性						
結腸切除	62	26	54	23	62	30
直腸切除	24	16	21	10	22	14
良性						
結腸切除	14	4	8		13	1
直腸切除	2				1	1
小腸切除	19		11	8	9	3
悪性	5		2		2	1
良性	14		9	8	7	2
その他の手術	255		214	32		
ヘルニア手術	134		111		131	
虫垂炎手術	76	76	77	75	106	103
イレウス	18	1	16			
うち小腸・結腸切除(再掲)	(10)	(1)	(7)		(8)	(1)
腸穿孔・腹膜炎手術	27	11	11	3	15	5
うち癌によるもの(再掲)	(10)	(3)	(2)	(1)	(2)	
肝切除	25	8	23	4	20	7
悪性						
部分切除および外側区域切除	14	6	6	1	14	7
上記以外の切除	8		14	1	6	
良性						
部分切除および外側区域切除	2	2	2	2		
その他の切除	1		1			
膵切除(胃切除に伴うものを除く)	8	2	15	3	5	
悪性						
膵頭十二指腸切除	6		9		3	
膵体尾部切除			3	1	1	
良性						
膵体尾部切除	2	2	2	2	1	
膵腫瘍摘出			1			
胆嚢摘出	137	134	162	159	149	148
乳腺	63		49		54	
悪性						
乳房切除	29		16		23	
乳房部分切除	32		30		28	
良性						
腫瘍摘出	2		3		3	

乳腺外科

1. 医師体制

役職名	氏名
科長	金子 しおり

※他科と重複する場合があります

2. 概要、特徴、特色

(1) 日本において女性のがん罹患率で乳がんが1位となっており、9人に一人が乳がん罹患しています(2018年国立がん研究センター、がん情報サービスより)。年齢別の罹患数をみると30歳代後半から増加を始め、40代後半から70代後半まで高い罹患率となっています。2018年の統計では60代後半から70代前半にピークがあります。乳がんの治療は手術だけではなく、薬物

療法、放射線療法と複合的に行っていくため、通院頻度や金銭面での負担がかかってきます。そこで自宅近くでも安心して治療が受けられるよう診療を行っています。

(2) 乳腺疾患に必要な設備を整え、乳腺疾患の精査から治療まで行っています。乳がん患者様の精神面のフォローや社会的背景を考慮しながら診療を行えるように、メディカルスタッフとの連携を図っています。必要に応じて乳がん精通した看護師やがん化学療法看護認定看護師、緩和ケア認定看護師等との面談を提案します。また、当院に放射線治療施設がないため、放射線治療が必要な症例に対しては近医への紹介を行っています。

3. 診療実績

(1) 検査件数

検査	件数
乳房エコー	1,758
乳房超音波ガイド下生検 (CNB)	110
ST マンモトーム	8
乳房 MRI	65
マンモグラフィー	2,007

診療実績 (診断群分類 6 桁別、2021年退院患者)

* 医科点数表 K コード

傷病 6 桁	傷病名	件数	年齢	在院日数	救急搬送	紹介あり	手術あり症例*	計画的繰り返し入院	その他の加療
090010	乳房の悪性腫瘍	92	60.8	4.6	0	26	50	40	52
090020	乳房の良性腫瘍	3	49.0	3.0	0	0	3		3
	計	95	60.4	4.5	0	26	53	40	55

(3) 手術件数

行為名称	件数
乳腺悪性腫瘍手術 (乳房切除術 (腋窩鎖骨下部郭清を伴うもの)・胸筋切除を併施しないもの)	7
乳腺悪性腫瘍手術 (乳房切除術 (腋窩部郭清を伴わないもの))	15
乳腺悪性腫瘍手術 (乳房部分切除術 (腋窩部郭清を伴うもの (内視鏡下によるものを含む。)))	4
乳腺悪性腫瘍手術 (乳房部分切除術 (腋窩部郭清を伴わないもの))	24
乳腺腫瘍摘出術 (長径 5 センチメートル以上)	2
乳腺腫瘍摘出術 (長径 5 センチメートル未満)	1
計	53

整形外科

1. 医師体制

役職名等	氏名
主任部長	仁平 高太郎
部長	桑沢 綾乃
病棟医長	遠藤 大輔
医員	丸木 千陽美
専攻医	安東 真理 西野 直人

2. 診療実績

(1) 手術件数

術式	件数
人工股関節置換術	436
人工股関節再置換術	7
人工膝関節置換術	487
人工膝関節再置換術	4
人工肩関節置換術	8
人工骨頭挿入	30
その他の関節手術	42
脊椎固定術	92
椎間板摘出術	12
骨折観血的手術	205
四肢切断	7
アキレス腱断裂・腱縫合	6
靭帯断裂手術	6
肩腱板断裂手術	14
骨切り術	3
神経剥離術・神経移行術	10
四肢・躯幹軟部腫瘍摘出術	10
骨悪性腫瘍手術	1
脊椎腫瘍・脊髄・骨腫瘍摘出	3
その他の手術	50
計	1,433

(2) 他院からの紹介

外来	985
入院 (外来後入院含む)	258
計	1,243

3. 学術・研究、講演、研修会等の記録

(1) 学会・研究会等の発表

演題名
BCR-TKA における Navio の可能性～3D による Joint line matching の有用性～
女医だっていいじゃないか、人間だもの
JOURNEY XR の手術手技 -manual から NAVIO まで 手術のポイントを振り返る-
変形性膝関節症に対する APS 治療の効果予測因子の検討
NAVIO を用いた UKA 手術のラーニングカーブの検討

■診療実績（診断群分類 6 桁別、2021年退院患者）

*医科点数表 K コード

傷病 6 桁	傷病名	件数	年齢	在院 日数	救急 搬送	紹介 あり	手術あり 症例*	診断 検査	計画的 繰り返し 入院	その他 の加療
07040x	股関節骨頭壊死、股関節症（変形性を含む。）	364	67.3	17.9	0	175	363			364
070230	膝関節症（変形性を含む。）	293	73.7	25.9	1	146	293			293
160800	股関節大腿近位骨折	79	80.0	37.6	31	50	74			79
160760	前腕の骨折	49	58.3	3.4	0	37	49		4	45
070343	脊柱管狭窄（脊椎症を含む。）腰部骨盤、不安定椎	38	74.5	22.1	0	23	34	1		37
160700	鎖骨骨折、肩甲骨骨折	32	55.1	3.0	0	21	32		9	23
160850	足関節・足部の骨折、脱臼	32	52.5	9.0	1	26	29		6	26
160610	四肢筋腱損傷	30	66.0	6.6	0	15	29			30
160740	肘関節周辺の骨折、脱臼	24	55.5	5.6	3	14	22		1	23
180040	手術・処置等の合併症	23	64.8	21.3	4	10	18			23
160720	肩関節周辺の骨折脱臼	21	55.5	5.3	1	15	21			21
160780	手関節周辺骨折脱臼	21	43.8	4.2	0	17	21		3	18
070341	脊柱管狭窄（脊椎症を含む。）頸部	20	76.2	26.2	1	9	17	1		19
070280	骨端症、骨軟骨障害・骨壊死、発育期の膝関節障害	16	73.3	19.3	0	8	16			16
160820	膝関節周辺骨折・脱臼	14	67.0	24.9	3	12	13		3	11
070350	椎間板変性、ヘルニア	13	56.7	13.1	0	6	12	1		12
071030	その他の筋骨格系・結合組織の疾患	13	69.2	67.8	5	3	13		1	12
160835	下腿足関節周辺骨折	11	65.9	24.0	2	7	10		2	9
07010x	化膿性関節炎（下肢）	10	61.0	42.4	0	5	10			10
070160	上肢末梢神経麻痺	9	60.0	5.3	0	5	9			9
050170	閉塞性動脈疾患	8	69.4	48.0	0	5	7			8
070200	手関節症（変形性を含む。）	8	66.3	3.1	0	6	8			8
070290	上肢関節拘縮・強直	7	50.3	4.6	0	4	7			7
160690	胸椎、腰椎以下骨折損傷（胸・腰椎損傷を含む。）	6	83.0	38.0	0	4	5			6
070010	骨軟部の良性腫瘍（脊椎脊髄を除く。）	5	59.0	3.0	0	2	5			5
070050	肩関節炎、肩の障害（その他）	5	69.8	17.0	0	1	5			5
070610	骨折変形癒合、癒合不全などによる変形（上肢）	5	69.8	3.8	0	4	5			5
080010	膿皮症	5	57.8	15.4	0	4	1			5
070470	関節リウマチ	4	78.3	18.5	0	2	4			4
160620	肘、膝の外傷（スポーツ障害等を含む。）	4	61.0	7.0	0	0	3			4
160990	多部位外傷	4	58.3	15.5	1	4	3			4
070080	滑膜炎、腱鞘炎、軟骨などの炎症（上肢）	3	60.3	21.3	0	3	3			3
010310	脳の障害（その他）	2	72.0	15.0	0	1	2			2
070085	滑膜炎、腱鞘炎、軟骨などの炎症（上肢以外）	2	65.5	7.5	0	0	1			2
070330	脊椎感染（感染を含む。）	2	86.0	131.0	0	2	2			2
070430	神経異栄養症、骨成長障害、骨障害（その他）	2	30.5	3.0	0	2	2		1	1
080250	褥瘡潰瘍	2	72.0	14.5	0	2	0			2
100100	糖尿病足病変	2	59.0	25.5	0	0	1			2
110280	慢性腎炎症候群・慢性間質性腎炎・慢性腎不全	2	76.0	57.0	2	1	2			2
160590	四肢神経損傷	2	39.5	2.5	0	0	2			2
160980	骨盤損傷	2	75.5	13.5	0	2	1			2
180030	その他の感染症（真菌を除く）	2	66.5	52.5	0	2	2			2
07034x	脊柱管狭窄（脊椎症を含む。）	2	71.0	44.0	0	1	2			2
	その他の傷病	23			4	15	18		1	22
	計	1,221	67.7	20.3	59	671	1,176	3	31	1,187

脳神経外科

1. 医師体制

役職名等	氏名
部長	石丸 純夫
非常勤	須田 喜久夫
	済生会川口総合病院脳神経外科部長
	脳神経外科専門医・指導医
	脳卒中専門医・指導医
	井出 光信
	脳神経外科専門医

2. 概要、特徴、特色

外来診療のみですが、脳卒中救急に関する相談や、病棟での脳卒中・頭部外傷患者さんのコンサルテーションに対応しました。

脳卒中の症例は多く、救急や当直帯での問い合わせもコンスタントに増えてきています。南部 MC の連携病院として、また、日本脳卒中協会に「一次脳卒中センター」として登録されたこともあり、脳卒中救急はたくさん受けていただいています。

慢性硬膜下血腫の手術適応患者さんは、済生会川口総合病院などに転送させていただいておりますが、外来での保存的治療・経過観察例もあります。

ボトックス治療は、顔面けいれん・眼瞼けいれんに対して施行しています。

- ・日本脳卒中学会教育研修病院（2017年12月から）
- ・埼玉県急性期脳梗塞治療ネットワーク（SSN）、南 MC の連携病院（2017年12月から）
- ・日本脳卒中協会の一次脳卒中センター（2019年12月から）

3. 外来診療実績

(1) 外来診療

脳外科外来患者数	1,529人	
（うち紹介患者数）	124人	
t-PA 施行例	0例	
血栓回収のための転送例	1例	
ボトックス治療施行件数	23件	
/SSN 依頼件数（*）	7件	
脳卒中	救急受入数	入院患者数
救急	103人	220人
脳梗塞	80人	164人
脳出血	21人	54人
くも膜下出血	2人	2人
慢性硬膜下血腫		
外来新患者数	25人	

（*）期間：2021年4月～2022年3月

	救急受入数	入院患者数
頭部外傷	35人	15人

頭痛	病院全体	脳神経外科
片頭痛	270人	86人
緊張型頭痛	186人	153人

CGRP 抗体製剤使用：7人

4. 学術・研究、講演、研修会等の記録

(1) 教育・研修

- ①毎週火曜日7時 救急症例検討会に参加。
- ②毎週金曜日14時 D5病棟リハビリテーションカンファレンスに参加
- ③毎週月曜日16時 脳卒中急性期入院リハビリの検討会に参加。
- ④6月～7月、研修医対象 金曜日7時15分、脳疾患画像のレクチャー 8回施行。
- ⑤7月 内科専門外来の看護師対象 「脳神経外科のトリアージ」のレクチャー

産婦人科

1. 医師体制

役職名	氏名
部長	市川清美
副部長	榎本明美 芳賀厚子
医長	伊藤浄樹 吉田順子
専攻医（研修出向中）	春日みさき 橋本弥生
専攻医（研修受け入れ）	黄弘吉 新真大
非常勤	竹内育代 岡野滋行 藪田直樹 堀内功 高木耕一郎 大森 恵 三澤 将大 古川由理
嘱託	神谷稔

2. 概要、特徴、特色

分娩数は400件を割り、当院での分娩が家族で新しいのちを迎える事を大切にしてきた中、コロナ禍で立ち合いなどが困難となった影響を強く受けていると思われました。（表1）。クリニックから精神疾患合併や妊娠糖尿病合併などの患者様をご紹介いただいているので、リスクを踏まえた管理を行っていくと同時に、コロナと共存しながら当院らしい分娩のあり方探っていく時期に来ています。

コロナ感染の妊婦様36人を管理し、集中治療や分娩が可能な病院への搬送6人 当院コロナ病棟への入院3人の他妊娠中の健康観察30人を行いました。コロナを含む母体搬送にあたっては、どこの医療機関も診療に困難を極める中、産科リエゾンを通じて高次医療機関に患者を受けていただき感謝しております。（表2）（コロナの場合自宅から直接搬送となっている患者様もいるため母体搬送になっていない患者様もいらっしゃいます）出生前診断は無認可施設での施行が拡がり実態把握が困難となる中、今後は全員に情報提供される方向が示されたため、その前提にたつて今までは異なるアプローチが求められています。（今回は数の把握が不正確と考え表にはしませんでした）

常勤医が1人増え手術件数は206件と増加しました。腹腔鏡手術は3件に留まっており、今後専攻医研修を終了した医師がさらに研修を積み地域の要求に見合った技術を持ち帰る予定で取り組んでいます。（表3）

月経随伴症状に対するホルモン治療や更年期障害に対してのホルモン治療も徐々に認知され患者様から希望されることも増えてきました。（表4）

子宮癌検診は2020年4638件より1600件余増加しました。（表5）コロナ禍で検診を控えていた方が再開されていると考えられます。一方で長期間不正出血が続いているにもかかわらず受診が遅れ進行した状態で初診される方もいるため、より受診しやすい婦人科が求められていると感じます。（表6）

HPVワクチンもやっと積極的勧奨が再開され徐々に数も増えてきました。（41人）受診者への性教育なども組み合わせ女性が自分の健康を自分で守っていく意識を醸成していく上で役立つ取り組みを行って参ります。

専攻医研修については東京女子医科大学附属足立医療センター、自治医科大学さいたま医療センターと連携し研修を受け入れていただき、また当院での地域医療の研修を提供しています。初期研修医のローテート研修（院内8人 関連病院から3人）も行いました。分娩数が減少している中でも産婦人科地域医療の現状と意義を伝えられるよう、学会発表や職員向けの学習会などの機会もつくりながら研修を組み立てています。

今後は分娩数増加を目指すに伴い、経済的に困窮して受診が遅れる方や、妊娠・出産・育児において支援を要する方、外国人など社会的に不安定な立場の方など民医連として取り組むべき患者様達といかに向き合っていくかスタッフと伴に考えつつ、新病院建設にむけ当院のあり方を模索していきたいと思えます。

3. 診療実績

図表のみとします。

4. 教育・研修・研究活動

演題名

子宮内膜細胞診・吸引生検で診断に至らず、全面搔爬で診断に至った子宮内膜ポリープに発生した漿液性癌の一例
上行性感染による侵襲性 GAS 感染症を発症した1例と陰分泌培養から GAS を検出した69例の検討

5. 診療実績

表1 分娩数と出産年齢及び合併症

年代別分娩数	2021年
19歳以下	4
20～24歳	34
25～29歳	114
30～34歳	107
35～39歳	81
40～44歳	16
45歳以上	0
計	356
帝王切開	83
合併症妊娠	
子宮筋腫	9
精神疾患	50
甲状腺疾患	6
高度肥満 (BMI ≥ 30)	2
糖尿病	1
HDP	17
GDM	29
円錐切除後頸管縫縮	6

表2 母体搬送の週数および紹介先

週数	8
～22週	1
23～27週	2
28～31週	0
32～34週	4
35週以上	1
搬送先	
川口医療センター	4
済生会川口総合病院	1
埼玉赤十字病院	1
自治医科大学付属医療センター	1
国立病院機構埼玉病院	1

表3 手術

入院・手術室施行 (帝王切開除く)	206
子宮筋腫	54
(うち帝切時併施)	2
卵巣腫瘍・含内膜症	33
(うち腹腔鏡)	1
異所性妊娠	2
(うち腹腔鏡)	2
頸部異形成・上皮内がん	41
子宮脱	21
子宮頸管縫縮術	20
その他	35

※流産手術 5

表4 ホルモン療法患者数

低用量ピル	3ヶ月以上
トリキュラー	33
ルナベル・フリウエル	231
ヤーズフレックス	19
計	264
エストラーナテープ	106
メノエイドコンビパッチ	15
ダイナゲスト・ジェノゲスト	239
ミレーナ (子宮内避妊具)	52
GnRH	3ヶ月以上
リュープリン	57
ナサニール	21
レルミナ	23
婦人科特定疾患治療管理	
器質性月経困難症	173

表5 がん検診

子宮頸部	6,244
NILM	6,111
ASC-US	66
ASC-H	3
LSIL	29
HSIL	17
AGC	11
SCC	0
材料不適	7

子宮体部	4,627
陰性	4,451
疑陽性	15
陽性	2
材料不適	159

表6 悪性腫瘍紹介数

紹介先	例数
がん・感染症センター都立駒込病院	7
埼玉県立がんセンター	6
自治医科大学附属さいたま医療センター	5
がん研有明病院	5
獨協医科大学埼玉医療センター	4
国立がん研究センター中央病院	3
川口市立医療センター	1
国立病院機構埼玉病院	1
東京女子医科大学東医療センター	1
東京大学医学部附属病院	1
その他	2
悪性腫瘍*	例数
子宮体癌	13
子宮頸癌	12
子宮体癌・頸癌	1
卵巣癌	8
外陰部悪性黒色腫	1
腹膜癌	1
総計	36

*返書なく結果不明の疑い例含む

皮膚科

1. 医師体制

役職名等	氏名
部長	伊藤 理恵
医員	飯島 孝四郎
非常勤医	10名

2. 概要、特徴、特色

皮膚科には常勤医2名、非常勤医10名が勤務しており、皮膚科としては県南最大規模の病院のひとつで、日本皮膚科学会認定の研修施設です。この12名で平日午前中と金曜日午後の一般診療を担当し、平日午後には手術や予約診療を行っています。

当科では通常の皮膚疾患をしっかりと診断し治療することを基本方針として診療をしています。診療疾患は多岐にわたるため、各種血液検査や病理検査に加えて、皮膚エコーやMRI、CTなどの画像診断を有効に使い、まず確定診断を正確にすることを目標としています。治療は通常の内服療法、外用療法のほか、手術療法や紫外線治療(UVA、UVB)、アトピー性皮膚炎に対する生物製剤、ジャック阻害剤治療も取り入れ効果をあげています。

また、外来にはQスイッチアレキサンドラレーザーがあり、健康保険診療としては太田母斑や異所性蒙古斑に、自費診療としては老人性色素斑に著効しています。

基本的に健康保険診療で治療していますが、いくつかの自費診療を取り入れており、患者様のQOL向上に有益と考えています。

3. 診療実績

(1) 外来診療

平日午前中は3～4人体制で、金曜日午後は1診体制で一般外来を行っています。平日午後は予約制で診療、手術、処置、美容関係の自費診療などを行っています。

2021年度の皮膚科延べ外来受診数は19,345人であり、月平均外来受診人数は1,600人を超えています。受診内容は湿疹アトピー性皮膚炎群、皮膚細菌感染症、真菌感染症、ウイルス性皮膚疾患、尋常性痤瘡、自己免疫性皮膚疾患、熱傷、各種爪疾患、良性悪性皮膚腫瘍など多岐にわたっています。

(2) 手術

毎週月曜日、水曜日、金曜日の午後に行っています。

2021年度の手術件数は388件で、局所麻酔下での手術が主体です。9割以上が日帰り外来手術ですが、入院手術も受けています。内容は表皮嚢腫、脂肪腫、母斑などの良性腫瘍切除術が多く、陥入爪根治術、皮膚悪性腫瘍切除術などが続きます。

(3) 紫外線治療

当科には長波長紫外線治療器(PUVA、UVB)とナローバンド中波長紫外線治療器(エキシマライト)があり、尋常性乾癬、アトピー性皮膚炎、掌蹠膿疱症などに対して光線治療を行い良好な効果をあげています。

(4) 自費診療部門

大部分は一般診療中に施行していますが、イオン導入とケミカルピーリングは木曜日と金曜日の午後に予約にて施行しています。

①アンチエイジング目的	レーザー治療	126件
	イオン導入	33件
	ケミカルピーリング	31件
②男性型脱毛症への内服治療		
③円形脱毛症などに対する局所免疫療法(SADBE治療)		
④陥入爪への超弾性ワイヤーによる治療		
⑤ピアスホール作成		

(2021年4月～2022年3月)

4. 学術・研究、講習、研修会等の記録

(1) 教育・研修

月曜日の外来診療後に臨床カンファレンスを行っています。当院は皮膚科専門医の一般研修施設です。希望があれば初期研修医及び後期研修医の皮膚科研修も受け入れています。

(2) 講演会活動等

アトピー性皮膚炎におけるデュピルマブの使用経験
アトピー性皮膚炎治療の基本と新しい治療戦略
掻痒性皮膚疾患の診断と治療～湿疹やじんましんを中心に～

眼科

1. 医師体制

役職名等	氏名
部長	太根 伸浩
非常勤	6名

2. 概要、特徴、特色

前年度から引き続き、外来は常勤医1名体制で、非常勤として週4回は帝京大学病院から派遣医師が担当しています。診療内容が多岐にわたるため基本的な一般検査一式だけでなく、OCT・エコーなどの画像診断や各種血液検査も併用し、幅広い眼科全般の診察（角膜疾患、白内障、緑内障、糖尿病網膜症・加齢黄斑変性症・RVOなど網膜疾患）に対応しています。

特に専門である緑内障に関しては、より詳細な診療を行っています。また神経眼科や頭頸部疾患の境界領域に対しても、脳外科・耳鼻咽喉科などと連携し、CT・MRIなどの画像診断を通じて、可及的速やかに対応できるようにしています。

その他の全身疾患に関しても、他科と積極的に連携し、早期発見・早期治療を目指しています。当院で対応が難しい各疾患に対しては、それぞれの専門医が在籍の各連携施設にご紹介いたします。

3. 診療実績

(1) 外来診療

月・水曜日は2診療体制、その他は1診療体制で外来診療を行っています。午後は視野など含め検査やレーザー治療などを中心に行っています。

(2) 外来患者数

実患者数	のべ患者数
2,881人	7,732人

(3) 手術（観血的）

毎週月・水曜日（午後のみ）に手術を行っています。白内障・緑内障が中心ですが、引き続き抗VEGF抗体硝子体注射も行っています。特に緑内障に関しては、最近、注目されてきている「より負担の少ない最小侵襲緑内障手術（MIGS）」も積極的に施行しています。

規模的制約があるため、角膜（内皮）移植や硝子体手術などの、より専門的で高度な設備が必要なケースは、

各疾患の専門医が在籍している連携機関（大学病院など）にご紹介しています。

コロナ禍のため、手術の延期・中止が多数ありましたが、状況は改善してきました。

術式	症例数（のべ）
白内障	26件
緑内障	17件
硝子体注射	67件
レーザー	70件

4. 学術・研究、講演、研修会等の記録

スタッフを含め、東京都・埼玉県など近隣の教育・研修会などに積極的に参加しています。

耳鼻咽喉科

1. 医師体制

役職名等	氏名
部長	越智 篤

2. 診療実績

KCODE	手術名	件数
K287	先天性耳瘻管摘出術	2
K309	鼓膜（排液、換気）チューブ挿入術	5
K3191	鼓室形成手術（耳小骨温存術）	4
K331	鼻腔粘膜焼灼術	1
K340-4	内視鏡下鼻・副鼻腔手術 2 型（副鼻腔単洞手術）	4
K340-5	内視鏡下鼻・副鼻腔手術 3 型（選択的（複数洞）副鼻腔手術）	5
K340-6	内視鏡下鼻・副鼻腔手術 4 型（汎副鼻腔手術）	3
K344	経鼻腔的翼突管神経切除術	1
K347-3	内視鏡下鼻中隔手術 1 型（骨、軟骨手術）	5
K347-5	内視鏡下鼻腔手術 1 型（下鼻甲介手術）	5
K347-6	内視鏡下鼻腔手術 2 型（鼻腔内手術）	1
K3692	咽頭異物摘出術（複雑なもの）	1
K370	アデノイド切除術	7
K3721	中咽頭腫瘍摘出術（経口腔によるもの）	1
K3772	口蓋扁桃手術（摘出）	16
K396	気管切開孔閉鎖術	2
K401	気管口狭窄拡大術	1
K454	顎下腺摘出術	1
K6261	リンパ節摘出術（長径 3 センチメートル未満）	2
K6262	リンパ節摘出術（長径 3 センチメートル以上）	1
	計	68

精神科

1. 医師体制

役職名等	氏名
部長	雪田 慎二
医長	荻野マリエ

※他科と重複している場合があります

2. 概要、特徴、特色

埼玉協同病院の精神科は1986年に開設されました。当初は精神科非常勤医師 1 名の体制で始まり、1993年からは常勤化され、30年近くが経過しました。現在は常勤医師 2 名の体制で診療を行っています。

長らく日本の精神医療は、単科精神病院での入院治療を中心に展開されてきました。しかし、1970年代以降は地域の中で生活しながら治療を受けることが重要視されるようになり、現在は、地域の中に数多くの精神科クリニックが開設され、以前と比べて精神科医療は数居の低い存在となっています。一方で、総合病院における精神科医療は大きく広がることはなく、総合病院精神科の必要性が周知されつつある現在でも、常勤医師が複数名所属する病院は非常に少ないのが現状です。

当院は総合病院に開設された精神病床を持たない精神科として以下のような特徴をもった医療を展開しています。

まず第一に、当院が地域の第一線の医療機関であることから、高齢者から若い方（概ね高校生以上）まで幅広い年齢層の患者を受け入れています。精神科入院医療を必要とするような重症例は受け入れることはできませんが、うつ病、不安障害、アルコール性依存症、認知症、慢性期の統合失調症など幅広い疾患を受け入れています。

第二には、身体疾患の治療をしながら精神科医療を提供できることも特徴です。特に高齢期には身体疾患に加え、認知症やうつ状態の合併も多く、こころと体の問題を総合的に診ていくことで質の高い医療が提供できます。

第三には、最近はお産子育ての過程で精神的に不安定となる方や、あるいは精神疾患をもともと抱える中でお産子育てをする方も増えてきており、産婦人科、小児科などとも連携をとりながら家族全体の生活を支援していくことも大切な活動となっています。

前記のような特徴を生かし発展させるために、地域住民、他の医療機関、行政、地域の福祉施設などとの連携を強める活動も行っています。

3. 診療実績

(1) 外来診療

- ①再来：月曜日～金曜日、1-2診体制、実患者数888人、外来延べ患者数6,884人
- ②新患：月曜日、2人/週、実患者数122人
(院内からの紹介に限る)
- ③被ばく相談外来：第1火曜日、放射線被ばくによる健康問題の相談援助

(2) 精神科デイケア：月曜日～金曜日、登録者数44人、延べ利用者数2,043人

(3) 病棟診療

- ①他科の入院患者への精神科医療の提供。他職種によるチーム活動。
 - 1) 緩和ケアチーム
 - 2) 認知症ケアチーム
 - 3) 精神科リエゾンコンサルテーションチーム
- ②緩和ケア医療（病棟スタッフとして診療）

4. 学術・研究、講演、研修会等の記録

- (1) 精神科多職種カンファレンス 毎週月曜日
- (2) 精神科抄読会 毎週木曜日または金曜日
- (3) 講演活動等

医療安全・睡眠薬学習講演会 特別講演座長

青森民医連看護管理者研修会 「障害者差別の問題を通して社会を診る ～一人ひとりの生き方が問われている～」

川口市医師会学習会 「在宅緩和充実支援勉強会 シンポジウム」 シンポジスト

くらしの学校 第2講座 「認知症は怖くない ～人生百年時代と認知症～」

麻酔科

1. 医師体制

役職名等	氏名
部長	西川 毅
技術部長	畔柳 綾
科長	黒羽根 朋子
医長	金子 吾朗
医員	岩切 裕子

2020年度より日本専門医機構の基幹病院に認定され、研修医の受入を行っています。

2. 概要、特徴、特色

(1) 麻酔科外来

2006年5月より始まった外来は、術後診察目的で月曜日と土曜日の週2回、F館2階で行っています。3診中2診で看護師の問診を行い、1診で医師の診察を行っています。2021年度の麻酔科外来総患者数は1,790人でした。

(2) 手術件数

2021年度の総手術件数は2,534件です。そのうち麻酔科管理は2,103件（82.9%）でした。現在は全身麻酔管理だけでなく、エコーを用いた各種神経ブロック麻酔も行っています。診療科別手術件数は次のとおりとなっています。

診療科	件数
外科	694
整形外科	1,338
産婦人科	288
泌尿器科+内科	55
眼科	92
耳鼻咽喉科	67
計	2,534

3. 学術・研究、講演、研修会等の記録

(1) 学会・研究会等の発表

関節鏡下腱板縫合術後に一側性末梢性舌下神経麻痺を生じた一例

ペインクリニック

1. 医師体制

役職名等	氏名
技術部長	畔柳 綾
医長	金子 吾朗

2. 概要、特徴、特色

2020年4月からは毎週木曜日に診察を行なっています。三叉神経痛、帯状疱疹後神経痛、腰下肢痛、肩甲骨痛など慢性痛に対して、エコーガイド下神経ブロック、透視下神経ブロック、高周波熱凝固術など、腋窩多汗症に対してボトックス治療も行っています。フットケア治療の一つとして、脊髄刺激療法を始めました。対象は、末梢血管障害による痛み、脊椎・脊髄疾患による痛み、その他神経障害性疼痛になります。

また、がん疼痛に対して、腹腔神経叢ブロックや、フェノールサドルブロック、脊髄鎮痛などの処置も行っています。治療内容によっては、入院治療も行っております。

(1) 外来患者数 (2021年4月～2022年3月)

病名	患者数
帯状疱疹後神経痛	385
腰部脊柱管狭窄症	29
三叉神経痛	57
がん疼痛	9
肩関節痛	24
頸肩腕症候群	37
頸椎症	58
閉塞性動脈硬化症	31
その他	400

(2) 神経ブロック別統計

硬膜外ブロック	426
三叉神経ブロック (注1)	23
がんの神経ブロック (注2)	8
肋間神経ブロック	10
神経根ブロック	51

(注1) 眼窩上、眼窩下、おとがい、ガッセル神経節ブロック)

(注2) 腹腔神経叢、硬膜外・くも膜下カテーテル留置)

(3) 脊髄刺激療法 3

3. 学術・研究、講演、研修会等の記録

(1) 学会・研究会等の発表

抗がん剤に伴う末梢神経障害に対して腰部交感神経節ブロックが有効だった症例

脊髄モルヒネ単剤を使用した脊髄くも膜下鎮痛法による在宅での緩和治療の一例

帯状疱疹後神経痛に対してガッセル神経節ブロックを行った一例

(2) 医療懇話会

埼玉協同病院ペインクリニック

病理診断科

1. 医師体制

役職名等	氏名
部長	石津 英喜

2. 概要、特徴、特色

難しい症例は東京医科歯科大学より週1回指導をしていただき、慎重に最終診断をしております。内視鏡の病理診断については日本消化器内視鏡学会専門医にも診断に加わっていただき精度の向上に努めております。

細胞診断では日本臨床細胞学会で認定を受けた3名の細胞検査士とともに診断を行っています。特に婦人科細胞診では、産婦人科臨床医でもある細胞診専門医との緊密な協力の下に診断にあたっています。

当院の特徴として病理診断管理加算を算定するために病理診断以外の勤務を制限する体制はとっておりません。病理専門医であっても外来、内視鏡検査などをしながら病理診断管理加算以上の貢献ができる勤務体制や、病理診断をしながら臨床能力も高め続けることのできる病理医の養成に努めています。

3. 学術・研究、講演、研修会等の記録

(1) 認定施設

日本病理学会研修認定施設 B

日本臨床細胞学会教育研修施設

日本臨床細胞学会認定施設

(2) 症例検討

病理科内での症例検討会 週1回

消化器カンファレンス 週1回

CPC（臨床病理検討会）医局主催で月1回

乳腺カンファレンス 週1回

4. 診療実績

(1) 検体数の推移

	解剖数	生検数	細胞診数
2017年	8	5,930	6,436
2018年	14	5,551	6,266
2019年	11	5,145	6,236
2020年	5	4,634	6,650
2021年	7	4,851	6,768

(2) 細胞診

(3) 法人内院所別統計

臨床検査科

1. 医師体制

役職名等	氏名
部長	砂川 恵伸

2. 概要、特徴、特色

常勤医1名は、臨床検査専門医(第805号)、病理専門医(第2584号)、細胞診専門医(第2648号)、総合内科専門医(第6414号)、感染症専門医(第08030998号)、Infection Control Doctor(ID 5240号)資格を有しており、以下の業務を多角的に行っています。

(1) 臨床検査

- ①検体管理加算(Ⅳ)に準じる診療:検体臨床全般の管理運営、定期的な精度管理を行っています。
- ②臨床検査適正化委員会を開催:臨床検査適正化委員会委員長として、委員会で臨床検査各部門の精度維持、向上に努めています。
- ③チーム医療:臨床検査学的見地から、各臨床医、技師、薬剤師、看護師と横断的に連絡を取り、他部門と討議の上でより質の高い医療を提供しています。また検体管理加算の見地から、臨床検査技師、事務、薬剤師とともに査定是正に取り組んでいます。
- ④外部委託:検体検査のうち特殊検査については、一般検査に比べて機械化による自動化ができないもの、検査の頻度の少ないもの、検査を行なうための設備投資の負担が大きいものは外部の検査施設へ委託しています。
- ⑤教育:臨床検査技師各位が患者様の利益につながるよう迅速かつ正確なデータの提供ができるよう、定期的(週1回)学習会を開催、知識・技術の向上に努めています。

(2) 病理・細胞診

- ①病理・細胞診業務:病理組織診断・細胞診診断、術中迅速診断、病理解剖などの業務に携わっています。
- ②至急検体への対応:治療方針決定を至急に要する結果報告書については、直接主治医へ連絡または診療録記載により、迅速性を図っています。
- ③血液悪性腫瘍などの骨髓検体:病理組織標本に加えて、外部委託された骨髓塗抹、flowcytometry、染色体・遺伝子検査などを併せた報告書を作成しています。特に骨髓標本については技師と定期的に会議を開催し、より正確な診断に努めています。

④がん患者のための会議参加:病理専門医・臨床検査専門医の立場から、がん患者のための会議参加(キャンサーボード)に定期的に参加しています。当院は「埼玉県がん診療指定病院」に指定されており、がん患者の診断・治療に携わる医師、薬剤師、ソーシャルワーカーなどの専門医療スタッフが、がん患者の症状、状態及び治療方針等を討議することが求められます。特に乳腺腫瘍、肝胆道系腫瘍、血液悪性腫瘍を担当しています。

(3) 内科・感染症

- ①菌血症・敗血症・感染症専門医の立場から、各種感染症患者のコンサルテーション業務:血液培養陽性となった症例は就業時に全例チェックし、グラム染色による迅速診断、起因菌の推定・同定、抗菌薬選択を提案し、各科の治療方針決定に携わっています。
- ②各治療ガイドライン:当院の感染症における「抗菌薬腎機能別投与法一覧(成人)」「Clostridium difficile関連下痢症」「感染性心内膜炎治療指針」を作成し、それに基づいた治療を実践しています。
- ③内科外来:総合内科専門医の立場から、内科急患外来業務を週1回(水曜)担当しています。同外来では急患患者対応に加えて、自科・他科からのコンサルテーション業務に携わっています。

(4) 感染症難解症例の検討および臨床研究

- ①難解症例:砂川は国立感染症研究所研究員を務めており、必要に応じて同研究所で、臨床検体を用いてより正確な診断の確定に努めています。
- ②臨床研究:血液培養などで検出された病原体を用いて遺伝子解析し、国立感染症研究所と共同研究しています。埼玉協同病院倫理審査承認番号21-03-06、国立感染症研究所倫理審査承認番号1254

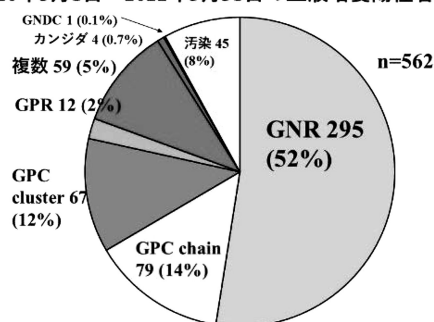
(5) 研修医・コメディカルワーカー教育

- ①臨床研修指導医(厚生労働省認定、第200401-24号)の立場から、研修医を指導しています。
- ②コメディカルワーカー教育:研修医、看護師向けに講義を行っています。これまでにを行った講義内容:菌血症、結核、採血管の取り扱い、保険病名の記載等。

3. 診療実績

- (1) 日本臨床検査医学会認定病院(2012年1月1日)
- (2) 臨床検査科内での症例検討会 週1回
医局主催の症例検討会 月1回
- (3) 感染症、臨床検査、病理などに関するコンサルテーション650件超
- (4) 血液培養陽性患者の内訳(2020年5月~2022年3月)

2020年5月1日～2022年3月31日の血液培養陽性者(n=562)



合計562件。GNR：グラム陰性桿菌、GPC chain：グラム陽性レンサ球菌、GPC cluster：グラム陽性ブドウ球菌、GPR：グラム陽性桿菌、GNDC：グラム陰性双球菌

4. 学術・研究、講演、研修会等の記録

(1) 学術・研究等の発表

演題名

真菌性副鼻腔炎の検討

膵頭十二指腸切除例の検討

(2) 著作・論文、寄稿等

演題名

Intra-familial transmission of *Streptococcus dysgalactiae* subsp. *equisimilis* (SDSE) : A first case report and review of the literature. *J Infect Chemother.* 2022.

Morphological and genetic identification of fungal genus/species in formalin-fixed, paraffin-embedded specimens obtained from patients with histologically proven fungal infection. *Mycoses.* 2021

教えて感染症の病理 (J-IDEO). 中外医学社

日頃の感染症診療で気になる疑問. 南江堂

診断に上達する法 プロフェッショナルたちからの提言. シービーアール

5. 次年度に向けて

2023年度に新病院が設立される予定で、なお一層、医療従事者へ理解しやすい医療貢献に努めて参ります。

放射線科

1. 医師体制

役職名等	氏名
部長	吉田 英夫
技術部長	松本 俊一
医長	岡崎 百子

2. 概要、特徴、特色

常勤医3名および非常勤医師で、CT、MRIを中心とした画像診断、読影を行っています。

画像診断管理料Ⅰ、画像診断管理料Ⅱ、遠隔画像診断Ⅱ等を加算しています。各診療科、各主治医との連携を密に適正な検査および迅速な診断を行っています。

3. 学術・研究、講演、研修会等の記録

定期的に研修医・若い放射線技師に対して、CT画像、MRI画像の診断をはじめ、放射線の基本的なことを教育・研修しています。

緩和ケア内科

1. 医師体制

役職名等	氏名
病棟医長	雪田 慎二
部長	佐野 広美
非常勤	有田 圭介

2. 診療科の特徴

緩和ケア内科は以下3つの診療機能で構成されています。

(1) 緩和ケア病棟

がん終末期による心身の苦痛を抱えた患者が入院する病棟です。また、介護力の問題からの一時入院や今後の療養先を探すための期間としての入院も可能です。症状の緩和だけでなく、がんとの闘いにより失ってしまった自分らしさを少しでも取り戻すお手伝いします。死に向き合うこと、常に希望を失わないこと、など人それぞれの気持ちに多職種スタッフが寄り添うケアをしています。患者・家族からの希望があれば、どのような病状でも自宅への退院を支援します。

(2) 緩和ケアチーム

今日のがん診療においては、がんと診断された時点からの緩和ケアの介入が必要と言われています。がん診療のどの時期にあっても、患者の全人的苦痛に対し多職種の専門性を活かしながらチームとして治療やケアの実践・助言を行います。また、院内の緩和ケア水準の維持向上に努める活動もしています。

(3) 緩和ケア外来

従来の緩和ケア病棟入院のための相談外来とは別に、外来がん患者への緩和ケア提供を目的とした外来です。本来は、がん診療のどの段階にある患者でも対象とすることが求められていますが、現時点では、積極的抗がん治療は終了しているけれども日常生活は概ね自立している患者に限定しています。できるだけ自宅で療養が続けられるように、状態に応じて訪問診療に切り替える支援をしています。

3. 活動と診療実績

今年度、当院は日本緩和医療学会の認定研修施設に認定されました。また、緩和ケア病棟は緩和ケア病棟入院料1の要件を満たし2021年6月から、緩和ケアチームは緩和ケア診療加算の要件を満たし同7月から算定を開始

しました。

(1) 緩和ケア病棟

コロナ禍による厳しい面会制限のため、入院を回避する傾向は全国的にみられ、診療実績としては不安定な時期もありましたが、1年間緩和ケア診療を継続することができました。従来通り、急性期型の緩和ケア病棟として在宅療養患者の緊急入院受け入れ、積極的退院支援を行いました。診療実績の安定化が今後の課題と考えています。(C4病棟看護科のページもご参照ください)

(2) 緩和ケアチーム

56件の依頼があり、疾患はがん51件、非がん5件、依頼時期は診断期8件、治療期22件、終末期21件、依頼内容(重複あり)は、疼痛46件、疼痛以外の症状28件、精神症状18件、家族ケア6件、倫理的問題1件、地域連携・退院支援11件でした。課題として、院内での認知度を高め、依頼元とのコミュニケーションを高めていけるように計画しています。(緩和ケアチームのページもご参照ください)

(3) 緩和ケア外来

4月より新規に開設し、初診患者19名(院内10名、他施設9名)のご紹介をいただきました。主には治療終了後で全身状態が維持されている患者の症状マネジメント、療養支援を行っています。患者一人に要する時間が一般診療と比較して長くなることから効率の良い外来とは言えませんが、少しでも枠を広げてより多くの受け入れができるようにしたいと考えています。

4. 学術・研究、講演、研修会等の記録

(1) 学術・研究等の発表

演題名
緩和ケア病棟における「急変」の対応 ～何が起きたのかを調べることで、伝えること～

健康増進センター

1. 医師体制

役職名等	氏名
健康増進センター長	小池 昭夫
医長	照井 幸雄

※他科と重複している場合があります

2. 概要、特徴、特色

特定健診、保健指導、一般健康診断、事業所健診等、幅広く健康診断を行っています。

胸部X線検査は、すべての画像を二次読影まで行い、随時カンファレンスを行っています。また、埼玉県労働局の委託を受けて健康管理手帳所持者のじん肺・石綿健康診断を行っています。

2020年度はコロナ渦の影響で、6,000件ほど健康診断数が少なくなりましたが、2021年度は、ほぼコロナ以前の数に戻りました。事業所健診の方が増え、自治体の健診数が減っています。

- ・人間ドック健診指導医 1名
- ・マンモグラフィ検診施設・画像認定施設

3. 実績

(1) 健康診断数 (2021年4月～2022年3月)

健康づくり健診	212件
特定健診	3,456件
被ばく者健診	40件
国保ドック	1,924件
医療生協さいたまドック	787件
じん肺健診	181件
事業所健診	9,763件
協会けんぽ	7,948件
上記以外の健康診断	6,535件
合計	30,846件

4. 次年度に向けて

- (1) 質の向上及び精度管理をすすめます。
- (2) 受診者の要望に応えます。
- (3) 収益確保をめざします。
- (4) 業務の効率化をすすめます。
- (5) 健診後フォローの充実をすすめます。
- (6) じん肺・アスベスト外来の充実を図ります。

